

実践報告

「看図アプローチ語りカフェ」を活用した1年生の自分作文 —過去現在未来の自分に似たきゅうちゃんで思いを綴る—

田中 岬¹⁾・石田ゆき²⁾

TANAKA Misaki ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ語りカフェ・きゅうちゃん・少人数教育・国語・作文

概要

本報告は、1年生が、学年の終わりに書く思い出作文の指導実践である。子どもたちは、幼稚園保育園の時の自分、今の自分、2年生の自分に似た「きゅうちゃん」の絵図を選び、成長の過程でどんなことができるようになったのか、どんな気持ちで2年生になろうとしているのかを語り合い、作文にまとめた。就学前の出来事についても「きゅうちゃん」を介して過去を尋ね合い、1年生の「自分きゅうちゃん」を語る際には成長を認め合う場面が見られた。「きゅうちゃん」は、子ども同士の弾むような対話を生み出し、自己の内面により深く語りかけ、思考を促すきっかけとなった。相手意識を持ち、主体的に聞き合う姿からは協同的に学ぶ、創造的で温かい授業づくりの手応えを感じた。

1. はじめに—授業に「看図アプローチ語りカフェ」を用いた経緯

作文の時間に、子どもたちが生き生きと自身の思いを語り合い、教室が楽しく、書きたいことがあふれ出てくる。そして、すすいと鉛筆が動いている授業は教師にとっても子どもたちにとっても理想的である。「書くこと」の指導において、まず「書きたい思い」が子どもたちの中になければ書かせることはできない。鹿内(2003, p.118)は「書くことがない」「どう書いていいかわからない」という子どもの言葉は、「先生の、取材と構成の指導は不十分である」ということを訴えているのだと述べている。この訴えを解消し、理想的な「書くこと」の授業展開に、「看図作文」が有効であることは枚挙にいとまがない。現在、「看図作文」から発展した「看図アプローチ」は様々

な分野で活用されている。本稿第1筆者田中は、本実践の前に「看図アプローチ」を活用し、少人数クラスの小学1年生に簡単な「説明文」を書く授業(田中2022)を行った。ビジュアルテキスト「きゅうちゃん」を使うことで子どもたちは楽しく対話しながら、親和的な学習活動の中で、簡単な「説明文」を完成することができた。「きゅうちゃん」は全国看図アプローチ研究会のマスコットのキャラクターであり、ビジュアルテキストでもある。本稿第2筆者石田が発案・開発(石田2022)したものである。

第1筆者田中は、前報(田中2022)の結果を受けて、学年の最後に作る文集に載せるための自分作文を書かせたいと考えた。子どもたちが十分に愛着を持った「きゅうちゃん」の絵図を使い、過去現在未来の自分語りをさせるのだ。授業方法

1) 岩見沢市立第一小学校
2) 日本医療大学

として、お互いの考えを共有し合い、対話しながら進める「看図アプローチ語りカフェ」を活用する。「看図アプローチ語りカフェ」は中学生や、専門学校生および大学生への授業、あるいは指導者の研修などで活用した先行研究（たとえば、茅野 2020, 山下 2020）がある。「看図アプローチ語りカフェ」を活用するにあたって、次のようなことを期待した。

- ・小学校1年生の少人数の授業でも活発で協同的な学習活動が行われること。
- ・子どもたちの「書きたい」思いがあふれるような作文指導が行えること。

II. 授業計画

II-1 対象児童・授業者・実践時期など

- ◆対象児童：小規模特認校 1年生 4人
- ◆授業者：第1筆者 田中 岬
- ◆実践時期：2月
- ◆倫理的配慮：本論文で紹介する実践データは過去に収集したものであり、さかのぼって作文等の使用許可をとることができない。このため、論文編集においては、学校・児童の

匿名化を徹底した。授業中、子どもたちは敬称・愛称で呼び合っているが、論文中ではこれをすべて敬称「さん」で統一して記載し、性別等もわからないようにした。

II-2 授業計画

◆単元名：思い出のアルバム

—自分きゅうちゃんをつかって、思い出を語り合いどんな2年生になりたいか自分作文を書こう。—

◆指導目標

◎幼稚園保育園の時の思い出や、1年生での出来事を思い出したり、どんな2年生になりたいか自分の姿を想像したりして自分作文を書くことができる。（書くこと ア）

◎自分の思いや考えが明確に伝わるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。（書くこと イ）

◎言葉を通じて自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在について尊重する態度を養うことができる。（学びに向かう力・人間性等）

◆指導時間：全9時間（1コマ45分）

◆指導計画：表1に示す。

表1 指導計画

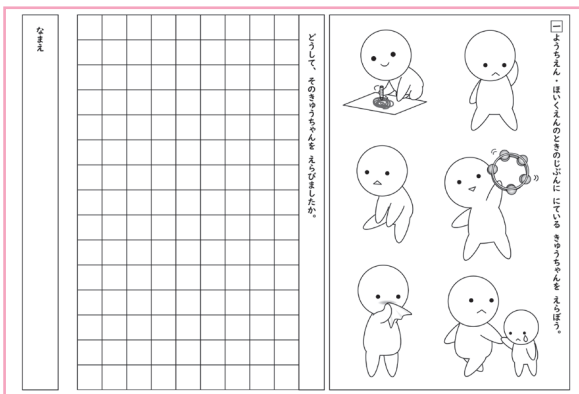
見通し (1時間)	<p>【1時間目】</p> <p>学習の見通しを持つ。学習の目標（幼稚園・保育園時代の自分、1年生の自分をふりかえり、どんなことができるようになったか、そして、どんな2年生になりたいか、それぞれの時代の自分をきゅうちゃんに見立てて自分作文を書くこと）を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出や2年生への抱負など簡単に語り合う。 ・教科書にある作文例を読む。
時系列に沿って作文材料集め 【過去】(2時間)	<p>【2時間目】</p> <p>幼稚園・保育園の時のことを思い出して交流した後、提示した6種類のきゅうちゃん絵図から、昔（幼保時代）の自分に似たきゅうちゃんを選び、どうしてそのきゅうちゃんを選んだのかワークシート□□に書き込んで発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起，課題確認（5分） ・6種類のきゅうちゃん（ワークシート□□右）について絵図の変換，要素関連づけを行う。（10分） ・幼保時代を思い出して自由発言。（10分） ・幼保時代の自分きゅうちゃんを選ぶ。 ・選んだ理由をワークシート□□左に記入する。（10分）

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">個人思考</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">交流 (6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表する。(7分) ・まとめ, 次時予告(3分) <p>【3時間目】</p> <p>それぞれが選んだ幼保時代の自分きょうちゃんと会話しながら(友達からの質問に答えたことも含む)どんなことがあったのか具体的な思い出のメモを作り, 文に書く。(絵図の外挿)ワークシート①②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起, 課題確認(5分) ・前時に選んだ自分きょうちゃんの絵が貼ってあるワークシート①にその時のことを具体的に思い出して書く。(10分) ・発表し質問し合う。(15分) ・自分きょうちゃんに質問しながら(友達からの質問に答えたことも含む), さらに深く思い出し詳しく書き足す。ワークシート②(10分) ・まとめ, 次時予告(5分)
	<p>【現在】(2時間)</p> <p>【4時間目】</p> <p>現在の1年間を思い出して交流した後, 現在(1年生)の自分に似たきょうちゃんを新しい6種類の絵図から選び, どうしてそのきょうちゃんを選んだのかワークシートに書き込んで発表する。ワークシート□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起, 課題確認(5分) ・6種類のきょうちゃん(ワークシート□右)について絵図の変換, 要素関連づけを行う。(10分) ・1年生のこれまでを思い出して自由発言。(10分) ・1年生の自分きょうちゃんを選ぶ。 ・選んだ理由をワークシート□左に記入する。(10分) ・発表する。(7分) ・まとめ, 次時予告(3分) <p>【5時間目】</p> <p>それぞれが選んだ1年生の自分きょうちゃんと会話しながら(友達からの質問に答えたことも含む)どんなことがあったのか具体的な思い出のメモを作り, 文を書く。(絵図の外挿)ワークシート③④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起, 課題確認(5分) ・前時に選んだ自分きょうちゃんの絵が貼ってあるワークシート③にその時のことを具体的に思い出して書く。(10分) ・発表し質問し合う。(15分) ・自分きょうちゃんに質問しながら(友達からの質問に答えたことも含む), さらに深く思い出し詳しく書き足す。ワークシート④(10分) ・まとめ, 次時予告(5分)
	<p>【未来】(2時間)</p> <p>【6時間目】</p> <p>2年生になったらどんな自分になりたいか, 全体で交流した後, なりたい自分に似たきょうちゃんを, さらに新しい6種類の絵図から選び, どうしてそのきょうちゃんを選んだのかワークシートに書き込んで発表する。ワークシート□</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起, 課題確認(5分)

	<ul style="list-style-type: none"> ・6種類のきゅうちゃん（ワークシート㉓右）について絵図の変換，要素関連づけを行う。（10分） ・どんな2年生になりたいか考えて自由発言。（10分） ・2年生になった自分きゅうちゃんを選ぶ。 ・選んだ理由をワークシート㉓左に記入する。（10分） ・発表する。（7分） ・まとめ，次時予告（3分） <p>【7時間目】</p> <p>それぞれが選んだ未来（2年生）の自分きゅうちゃんと会話しながら（友達からの質問に答えたことも含む）どんなことがあったのか具体的な思い出のメモを作り，文に書く。（絵図の外挿）ワークシート㉔㉕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時想起，課題確認（5分） ・前時に選んだ自分きゅうちゃんの絵が貼ってあるワークシート㉔にその時のことを具体的に思い出して書く。（外挿）（10分） ・発表し質問し合う。（15分） ・自分きゅうちゃんに質問しながら（友達からの質問に答えたことも含む），さらに深く思い出し詳しく書き足す。ワークシート㉕（10分） ・まとめ，次時予告（5分）
<p>完成・交流 （2時間）</p>	<p>【8・9時間目】</p> <p>清書</p> <p>発表・ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙の使い方に注意する。

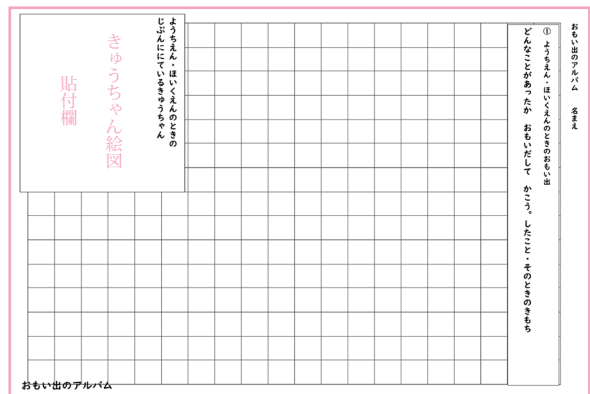
II-3 教材（ワークシート）

作成したワークシートの一覧を次に掲載する。



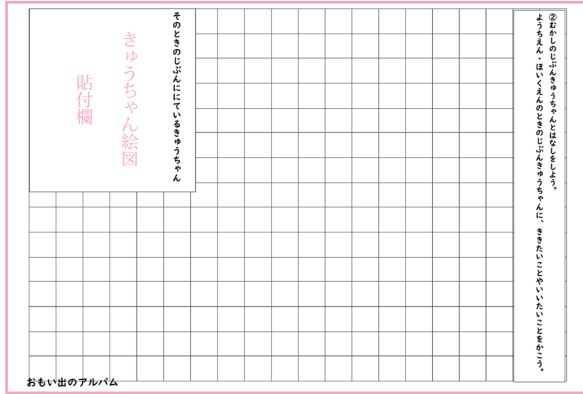
教材1 ワークシート㉓

（指示：ようちえん・ほいくえんのときのじぶんに いているきゅうちゃんを えらぼう。）



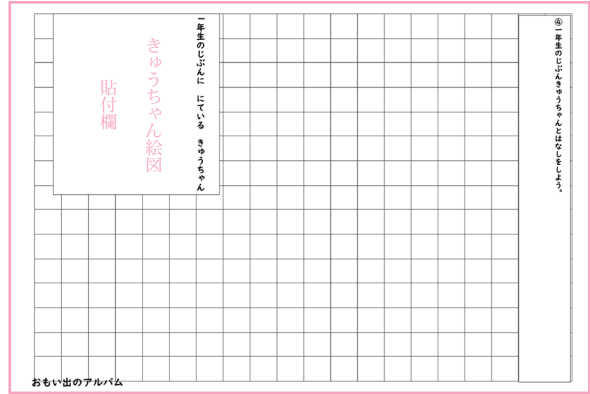
教材2 ワークシート㉔

（指示：ようちえん・ほいくえんのときの思い出 どんなことがあったか おもいだして かこう。 したこと・そのときのきもち）



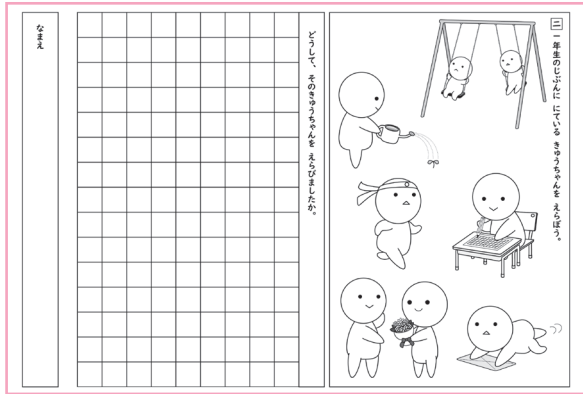
教材3 ワークシート②

(指示：むかしのじぶんきゅうちゃんとはなしをしよう。ようちえん・ほいくえんなどのときのじぶんきゅうちゃんに、ききたいことやいいたいことをかこう。)



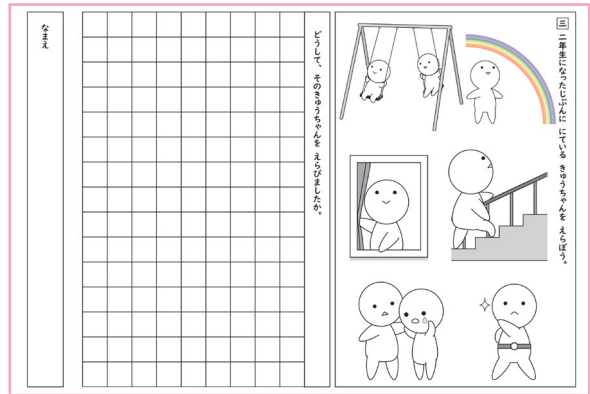
教材6 ワークシート④

(指示：一年生のじぶんきゅうちゃんとはなしをしよう。)



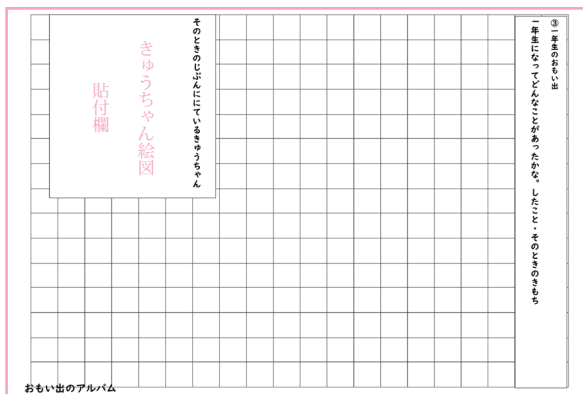
教材4 ワークシート②

(指示：一年生のじぶんに にている きゅうちゃんを えらぼう。)



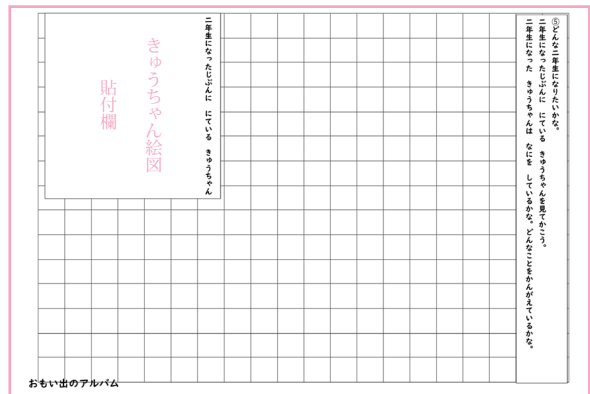
教材7 ワークシート③

(指示：二年生になったじぶんに にている きゅうちゃんを えらぼう。)



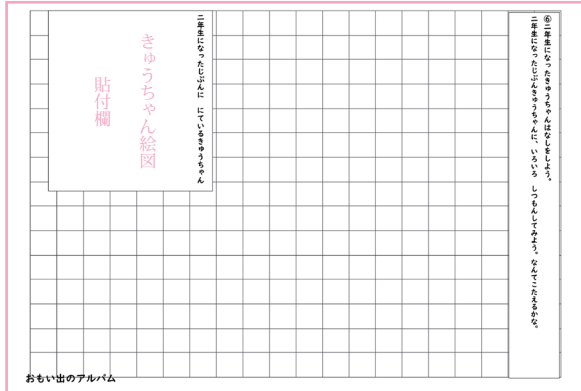
教材5 ワークシート③

(指示：一年生になってどんなことがあったかな。したこと・そのときのきもち)



教材8 ワークシート⑤

(指示：どんな二年生になりたいかな。二年生になったじぶんに にている きゅうちゃんを見てかこう。二年生になったきゅうちゃんはなにを しているかな。どんなことをかながえているかな。)



教材9 ワークシート⑥

（指示：二年生になったきゅうちゃんとはなしをしよう。二年生になったじぶんきゅうちゃんに、いろいろ しつもんしてみよう。なんてこたえるかな。）

Ⅲ. 授業の実際

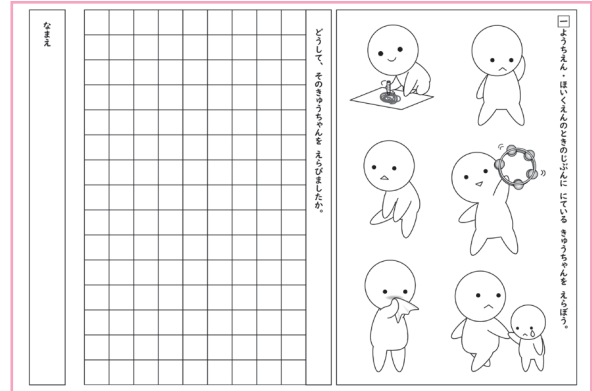
Ⅲ-1 授業の進め方概略

授業の進め方は上掲「指導計画」（表1）の通りであるが、概略をまとめておく。授業は全9時間配当で行う。最初の1時間目は「学習の見通しを立てる」時間である。2時間目・3時間目は「過去の自分」について詳しく取材をする時間である。4時間目・5時間目は「現在の自分」について詳しく取材をする時間である。同様に6時間目・7時間目は「未来の自分」について詳しく取材をする時間である。8時間目・9時間目は、作文の清書と発表およびふりかえりを行う。

以下に、2時間目以降7時間目までの授業の実際について報告していく。1時間目の「学習の見通しを立てる」時間については「指導計画」（表1）の通りであるため詳細については省略する。8・9時間目については書きあがった作文と子どもたちのふりかえりをⅣに掲載する。

Ⅲ-2 過去（幼保時代）の自分語りと材料集め

前時（1時間目）に、幼稚園保育園の思い出を想起させ、自由に存分に語り合わせている。本時（2時間目）冒頭で再度その内容を子どもたちに想起させ、ワークシート□を配付する。



ワークシート□（再掲）

ワークシート□にはお絵描きしているきゅうちゃん・タンバリンを振っているきゅうちゃん・手を引かれて泣いているきゅうちゃんなどの絵図が提示してあり、その横に、文章が書けるようにマス目を施してある。子どもたちは、「あ、きゅうちゃんだ。」「かわいい。お絵描きしてる。」「このきゅうちゃん、泣いてる。」などと口々に言いながら、ワークシート□にある絵図を指さしたりなでたりしてきゅうちゃんに夢中になっていた。提示されている6つのきゅうちゃんについて変換・要素関連づけ・外挿を行わせ、それぞれ、幼稚園保育園時代の自分に似ているきゅうちゃんを選ばせた。子どもたちは「ぼく、このきゅうちゃんにする。」「わたしは、タンバリンの。」などとすぐに、自分きゅうちゃんを選び出した。ワークシート□には、なぜそのきゅうちゃんを選んだのか理由も書くことを指示した。就学前、それぞれ別の施設で育ってきた子どもたちは、友達の知らない部分についての語り合いが楽しくて仕方ないという様子で発表し合っていた。対話記録の一部を紹介する。

C4 C2 きゅうちゃん、タンバリンで何の音楽していたの？

C2 いろんな音楽。

T C2さん、そのときどんなきもちでおどっていたの？

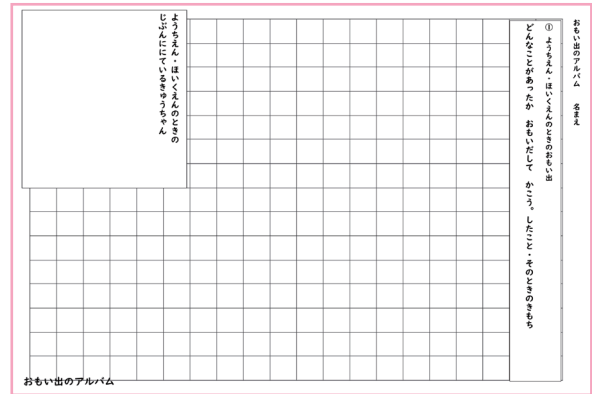
C2 楽しい気持ち。

- C2 C4 きゅうちゃん、いつも泣いていたんですか。
- C3 なんで泣いてるんですか。
- C4 保育園のときに「なんか買って。」と言ったら「帰るよ。」と言われたの。
- C3 「おもちゃがほしいよ。」と言って泣いてるんですか。
- C4 違います。飲みものが買ってほしかったのに「帰るよ。」って言われたの。
- C1 どうしてお母さんは買ってくれなかったのですか。
- C4 「早く帰るよ。」って言って買ってくれなかったの。
- T あ〜、C4さんは喉が渴いていたから買ってほしかったのに、お母さんは急いで帰ったかっただね。
- C4 (うなずく)
- C3 お絵描きのにする。
- T 次はC3さんに質問ね。
- C2 お絵描き好きだったんですか。
- C3 はい。
- C4 お絵描きの絵はなんだったんですか。
- C3 タイヤ。
- C2 ということは、じゃあ、車が好きだったんですか。
- C3 そう。

この後、幼保時代の自分きゅうちゃんと選んだ理由をワークシートに書き込み、発表した。子どもたちは、「いつも遊んでいて、楽しかったから。」(原文は、ほぼ平仮名表記だが読みにくさを解消するため第1筆者田中が漢字仮名交じりにした。以下同様である。)
「わたしが、保育園のときに、似ているから選びました。」のように選んだ理由を文の最初に書いた。そして、続けてきゅうちゃんの絵図を読み解き、「ぼくが誰かという、泣いている人です。となりにいるのがママです。」「タンバリンで遊んでいる。手をあげている。幼稚園のころ。いつもわたしは遊んでいる。」「わたしは保育園のころお絵描きが好きでした。今もお絵描

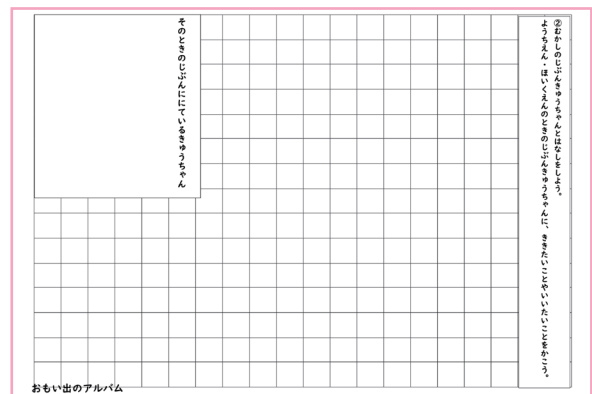
きが好きです。動物や人を描いていました。」のようにきゅうちゃん絵図に対して自分の様子として要素関連づけ、外挿を行っていった。

3時間目では、子どもたちが選んだきゅうちゃん絵図を貼り付けたワークシート①を配付し、具体的に自分が何をしているのか、どんな気持ちでいたのかなどを書かせた。



ワークシート① (再掲)

それぞれの発表が終わった後、友達が選んだ自分きゅうちゃんに対する質問を考えて発表した。この後、同じ時間の中でワークシート②を配付し、さらに深く、具体的な作文メモを作るために「自分きゅうちゃんへの質問とその答え」を書くように指示した。質問内容は自分で考えたものでも友達から出された質問でもよいことにした。



ワークシート② (再掲)

以下はワークシート①②に取り組んだ時の対話記録である。

T 幼稚園や保育園の時のきゅうちゃんを見ながら、新しいワークシート使うよ。（ワークシート①を提示）

C3 なにこれ。なにこれ。

T なんて書いてある？

C 全員 どんなことがあったのか、思い出して書こう。

T 幼稚園の時の自分きゅうちゃんの絵を見ながら考えるんだよ。そのときのことをどんなことがあったか思い出して書こう。C1さん お絵描き。好きな絵を描いてたんでしょ。C2さんはタンバリン持ってるね。何してるのか、それを書いてください。（机間巡視しながら）

T タンバリン持って何してるの？

C2 振ってるの。音出してるの。

T あ〜、シャランって音出してるのね。きゅうちゃんの持ってるものよく見て何を持っているのかとか詳しいこと教えてね。C4さんはそのきゅうちゃん？

C4 泣いてるの。

T あ〜泣いてるのね。なんで泣いてるんだろう。

…中略…

T 今書いたのを読んでくれる？

C4 泣いてるの。

T 誰と一緒にいるのか書いてね。

C4 ママが保育園に迎えに来た時に「飲みものを買って。」って言ったから泣いてる。ママが困ってる。

T ああ、ママ、困った顔してるよね。

T じゃあ今度、C3さん。

C3 お絵描きが好きだからやっています。お絵描きが好きだから描いています。クレヨンを持って椅子に立って（ママ）描いています。また幼稚園みたいにお絵描きがやりたいです。いつかやりたいと思います。またやりたいと思います。いつかやれると思います。

T はい、たくさん書けたね。じゃあ今度、C1さん。

C1 絵を描いています。みかんを描いています。小さい頃はよく描いていました。好きな色は5歳のころは赤色です。1年生の時は青色です。手に持っているものはクレヨンです。

T あ〜、わかったね。詳しくわかったね。今度C2さん読んでください。

C2 タンバリンで遊んでいます。タンバリンを振っています。おもちゃ箱から持ってきました。1人で遊んでいます。いつも遊んでいました。

T 次のページめくって（と言ってワークシート②を開くように指示）じゃあ、自分で質問を考えて書いて。昨日みんなから出た質問も書いていいよ。自分でどんなことを聞きたいかなってこと。今度はそのきゅうちゃんに聞きたいことを書くよ。（自分と友達が出した質問を思い出して5つくらいまで書くことを伝えた）

…中略…

T 質問するのは今の自分、答えるのは幼稚園保育園の時の自分だよ。（この指示は、子どもたちにより詳しい取材と描写をしてもらうことを意図して行った。自分で過去の自分に質問をして、それに答えていくという手法を取りたかった。子どもたちは指示の内容を確かめながらワークシート②を埋めていった。）

泣いているきゅうちゃんを選んだC4は「どうして泣いているの。」「飲みものを買ってくれないから。」「どうして飲みものがほしかったの。」「がまんできないくらいのが渴いていたから。」と短いながらも2つの受け答えを書いた。また、タンバリンきゅうちゃんを選んだC2は、「なんの曲ですか。」「やってみよう。」「誰とやっていますか。」「1人でやっています。」「どこでかってきましたか。」「イオンでかいました。」「なにをしているの。」「おどっています。」「どこでやっているの。」「おうちです。」と合計で5つの受け答えを自分きゅうちゃんにさせている。こうして、1つの時代（過去・幼保時代）の自分についてワークシート□

①②を完成させて作文の材料集めをすることに子どもたちは慣れていった。

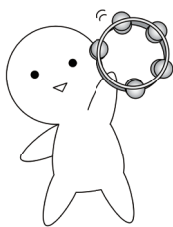
以下にワークシート□①②の記述内容を紹介する。なお、原文には読点「,」が非常に少なく、平仮名だけの文は非常に読みづらいため、掲載に際して第一筆者田中が、適当な箇所に読点を施してある。後に紹介するすべてのワークシートについても同様とする。また、倫理的配慮によりワークシート上の一人称はすべて「わたし」に書き替えてある。

ワークシート□の記述例 (C1)



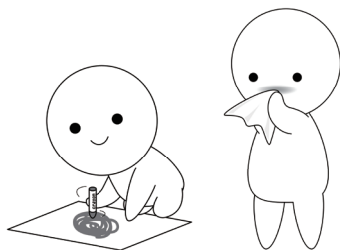
わたしがほいくえんのときに、にているからえらびました。わたしは、ほいくえんのころおえかきがすきでした。いまもおえかきが、すきです。どうぶつや人をかいていました。

ワークシート□の記述例 (C2)



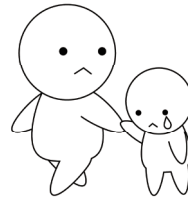
いつもあそんでいたのしくしていたから。タンバリンであそんでいる。手をあげている。ようちえんのころ。いつもわたしはあそんでいます。

ワークシート□の記述例 (C3)



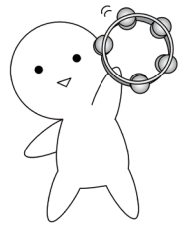
ようちえんのときよくおえかきとはなをかんでいるのをおもい出せるからです。いますぐやりたい。

ワークシート□の記述例 (C4)



「なんかかって」っていったら「かえるよ」っていわれてないたからです。わたしがだれかといわないでる人です。となりにいるのはママです。

ワークシート①②の記述例 (C2)

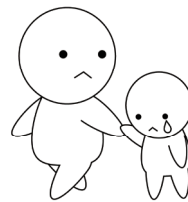


タンバリンであそんでいます。タンバリンをふっています。おもちゃばこからもってきました。一人であそんでいました。

- 〔質問〕 ①なんのきよくですか。
 ②だれとやっていますか。
 ③どこでかきましたか。
 ④なにをしているの。
 ⑤どこでやっているの？

- 〔返答〕 ①やってみよう
 ②ひとりでやっています。
 ③イオンでかきました。
 ④おどっています。
 ⑤おうちです。

ワークシート①②の記述例 (C4)

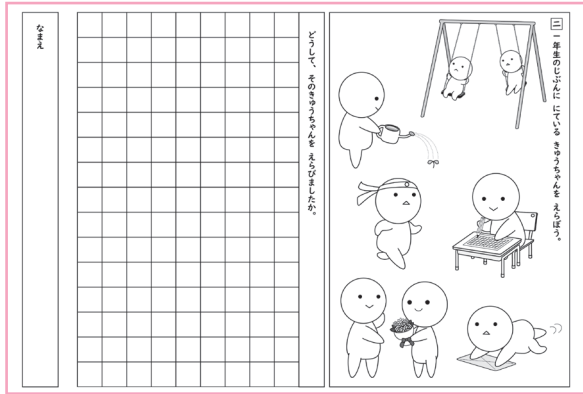


ママがほいくえんにむかえにきたときに、「のみものをかって」っていったらないた。ママがこまっている。はなしをしています。

- 〔質問〕 ①どうしてないてるの。
 ② どうしてのみものがほしかったの。
 〔返答〕 ① のみものをかってくれないから。
 ② がまんできないくらい、のどがかわいていたから。

III-3 現在（1年生）の自分語りと作文材料集め

4時間目は、次のような指示で始めた。子どもたちが1年生になってどんなことができるようになったかを考えてもらうこと。そして1年生現在の自分きゅうちゃんを探すこと。このような課題意識を持たせたところでワークシート□を配付した。



ワークシート□（再掲）

幼保時代のワークシート□とは違うきゅうちゃんの絵図を提示した。ワークシート□には1年間の行事や出来事などが思い出せるようなきゅうちゃんの絵図を意図的に配置した。ブランコに乗っているきゅうちゃん・作文を書いているきゅうちゃん・マラソンをしているきゅうちゃん・雑巾がけをしているきゅうちゃんなどの絵図である。この中から選ぶことを言い添えると、子どもたちは次々に「あっ、ブランコだ。」「きゅうちゃん、ブランコに乗ってる。」「作文を書いてる、このきゅうちゃん。」「あ、マラソンも。ぼく、これにする。」「雑巾がけしてるきゅうちゃんもいる。」などと自由に発言した。その他の指示は特に行わなかったにも関わらず、子どもたちはきゅうちゃん絵図にある「もの」や「こと」を続けざまに言語化(変換)し、きゅうちゃんが何をしているのか、その状況を意味のある文に(要素関連づけ)していった。

以下は、1年生の自分きゅうちゃんについて発表している場面の対話記録である。

T □のワークシート、発表してもらいます。じゃあ、C3さんからしてくれるの？いい？

C3 1年生のとき、よく遊んでいたのが思い出せるからです。ブランコで遊んでいます。友達と楽しそうに遊んでいます。C3は左のきゅうちゃんです。右のきゅうちゃんは友達のきゅうちゃんです。すごく楽しそうです。お話ししながら遊んでいます。すごく楽しかったです。またやりたいです。

C4 質問いい？C3さんのお友達は口あけてなくて前向いてるのにC3さんだけはなんでしゃべってるの？

T あ〜、本当だね、C3さんきゅうちゃんとお友達のきゅうちゃんは口の形違うね。

C3 C3はね、ね、左だよ。

C2 しゃべってない方だよ。

C3 そうだよ。

C4 左こっち？（と左手の人差し指で体の左側を指し示す）

C1・2・3 そうだよ。

C4 ああ、じゃあC3さんはどうしてしゃべってないの？C3さんは口あいてないのに友達はあるの。どうして？

C3 友達しゃべってるから話すこと考えてるの。

T みんなきゅうちゃんの表情、顔の様子、よく見てるねえ。みんな二人のきゅうちゃんの表情よく見てるね。とってもいいことだと思うよ。C3さん、よく考えてる。

C1 あっ足が。C3さん、後ろに行こうとしてるから足を後ろにして、友達は前に行こうとしてるから足を前に出してる。

T へ〜。

C3 ブランコの乗り方、知らなかった？

T C3さん、ブランコきゅうちゃんの絵のそういうとこまで見た？

C3（首を振る）じゃあ次の人お願いします。

C1 作文を書けるようになりました…。

C2 幼稚園のころは苦手だったんですか。

C4 保育園では、やってませんでした。
 C3 作文はなんのことを書いていたんですか。
 T いい質問。
 C1 えっとアイヌのこととか、…。
 C3 あっ、アイヌのこと書いたね。
 C1 丸とか点とか教えてもらって書けるようになりました。
 C3 なんで作文を書いているんですか。
 C4 アイヌのこと勉強したから？
 C2 C3さんに続けたいです。
 C3 いや続けなくてよ。
 T C1さん、答えてあげて。なんで作文を書いているんですかって。
 C1 できなかったことができるようになったことを書いてる（選んだ）からです。1年生の自分きゅうちゃんは作文ができるようになったからこれを選んだの。
 C3 わかりました。
 C1 これで終わります。
 全員（拍手）
 C2 わたしは作文を書いているきゅうちゃんです。…1年生になって勉強が上手くなったんです。
 T みんなC2さんに質問や感想どうぞ。
 C3 勉強が好きだったんですか。勉強が好きだからもっとしたいんですか。
 C2 はい。勉強が好きで幼稚園のころ家に帰ったらいつも、あいうえおとか書いていました。
 C4 幼稚園のころ、宿題はあったんですか。
 C2 いいえ、なかったです。
 C3 ないに決まってるよ。
 C1 自分の字が上手だと思っていたんですか。
 C2 幼稚園のころ？え、汚いと思ってました。
 C1 じゃあ、今は？
 C2 きれいと思っています。岬先生に教えてもらったから、きれいに書けるようになったと思います。
 T ああ、できるようになったこと、あったねえ。

C1 勉強は幼稚園のときやっていたんですか。
 C2 いいえ、折り紙とかはやっていました。勉強はやっていませんでした。
 C3 どうして勉強、あいうえおとかやっていたんですか。
 C2 学校のためにやりたかったからです。
 C4 自分の字を好きだと思っていますか。
 T 1年生になってから？
 C4 自分の字を、1年生になってから字が書けるようになって好きになりましたか。
 C1 きれいだから好きになりましたか。
 C2 あんまり。
 C1 もっと上手になりたいと思いますか。
 C2 はい、2年生になったらもっときれいに書けるようになります。
 T ああ、C2さん、すごいね。もう、2年生になったらどんな自分になりたいかの気持ちが1つ出てきたねえ。
 C3 習字習ったらうまくなれるよ。
 T はい。じゃあC2さんの終わりね。
 全員（拍手）
 C4 体育で学校6周したから、むちゃくちゃ足が疲れて足が痛くなった。
 T どのきゅうちゃんですか。
 C2 マラソンですか。
 C4 マラソンのきゅうちゃんと寝っ転がってるの。
 C1 床雑巾してる。
 C4 床雑巾なの？これ。
 C1 いや、寝っ転がってるんじゃないくて雑巾レースだよ。
 C2 マラソンの時、そんなことあったね～。
 T C4さんに質問ありますか。
 C2 保育園の時はマラソンしていましたか。
 C4 はい、していました。筋肉をつけるために。ほかに質問ありませんか。
 T じゃあ先生からも質問です。C4さん、保育園の時と比べてどんなことができるようになったから、そのきゅうちゃんを選びましたか。

C4 どんなこと？…走ることが速く走れるようになった。

T あ～、保育園のときよりも速く走れるようになったんだ。

C4 あとね、C4 ね、みんなのことね、最初は全然抜かせなかったけど後から全員抜かせるようになった。

T あ～、1年生の途中になってから足が速くなってみんなを抜かせるようになったってこと？

C4 うん。（うなづく）

T 今日のお勉強は、どんなことができるようになったかみんなで話して、その感想や質問を言うんだよね。C4 さん、他にはできるようになったこと、もう、なあい？

C4 勉強も。算数、国語。

T うん、そうだよね。そういえば、学習発表会で言ったこと、なんだっけ？

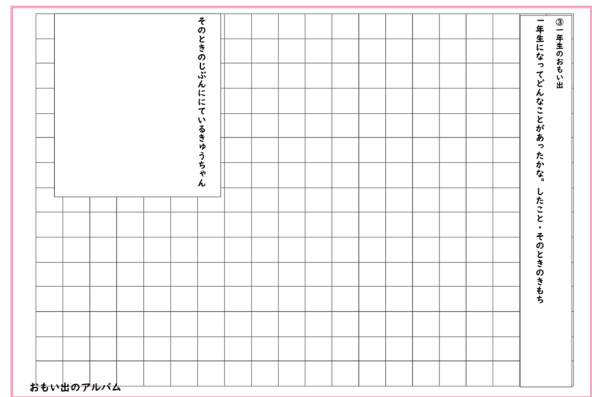
C3 ああ、漢字だ。

T そうだね。C3 さん、ありがとう。じゃあ、C4 さんはこれも選んでおこうか。（勉強しているふうの作文きゅうちゃん絵図を選択するよう指示）

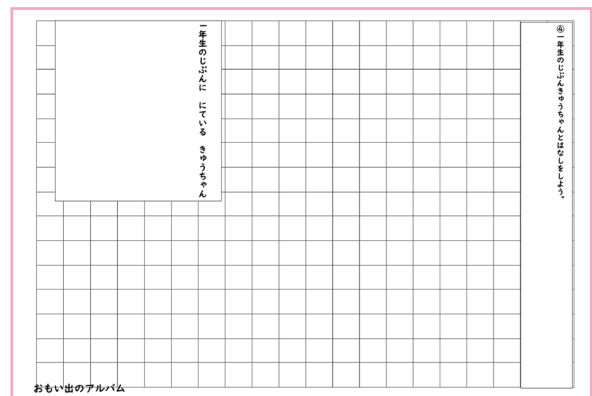
以上のように、現在の自分たちを語り合う本時（4時間目）は、幼保時代の時間（2・3時間目）にも増して、非常に発言が活発であった。きゅうちゃんの絵図から、自分のことだけでなく、様々な行事やクラス内での出来事を思い出していた。自分でできるようになったことを自覚して書いている児童もいれば、友達からの質問に答えている中で、できるようになりたいと思っている自分（「2年生になったらもっと（字が）きれいに書けるようになりたい」と発言したC2など）に気づいた児童もいた。1人の発言に対して、ほかの子どもたちは次々と質問を投げかけている。子どもたちの対話からは、皆、1年間の行事や出来事をふりかえり、自分のことだけでなく、友達の言った言葉や行動についても思い出して懐かしみ、共感していることがうかがえる。夢中になって語り

合う姿は子ども同士、お互いの成長を認め合う姿でもあり、優しく温かい時間が流れた。

そして、子どもたちが選んだ自分きゅうちゃんを貼り付けたワークシート③④を準備し、5時間目を迎えた。



ワークシート③（再掲）



ワークシート④（再掲）

ワークシート③④に記入しながら、幼稚園保育園のことに話が戻ることもあった。しかし前時の対話を思い出しながら、子どもたちは再び質問をし合い、ワークシートをどんどん埋めていった。出来上がったワークシートの文章量は、幼稚園保育園時代のことを綴ったときよりも飛躍的に伸びていた。ブランコきゅうちゃんや作文きゅうちゃんを選んだ児童は、それぞれ、「ブランコができるようになった。幼稚園のときは押ししてもらっていたけど、小学校にきてからできました。夏にやりました。楽しいから。うれしい気持ちでした。」「作文用紙にかけてうれしいな。このきゅうちゃんは、作文用紙に夢中になってる。」などと、自

分をきゅうちゃんに重ねて、気持ち、様子、状況などを詳しく書いている。

以下にワークシート③④の記述内容を紹介する。

C2 の記述内容

ワークシート③の記述



わたしは、ようちえんのころべんきょうがにがてで一年生になってべんきょうがうまくなった。

ワークシート③の記述

ようちえんのとき、さく文がにがてで一年生になってできるようになりました。学しゅうはっぴょうかいのさく文をかいています。手わでこうかのこと（手話で校歌を表現したこと）をかきました。

ワークシート④の記述

さく文ようしにかけてうれしいな。このきゅうちゃんは、さく文ようしにむちゅうになる。

C3 の記述内容

ワークシート③の記述例



一年生のときよくあそんでいたのを思い出せるからです。ブランコであそんでいます。ともだちとたのしそうにあそんでいます。C3は左のきゅうちゃんです。右のきゅうちゃんとはもだちです。おはなししながらあそんでいます。すごくたのしかったです。またやりたいです。

ワークシート③の記述

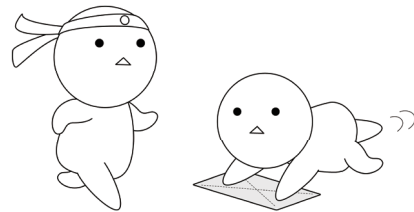
みんなとたまにあそんでいます。そのときすごくたのしかったです。またやりたいです。なつになったらできるとおもいます。こんど、ともだちとやれるといいな。やれなかったら、ちがうゆうぐであそびます。たまに一人でブランコであそびます。ふゆになったらできないから、ゆきあそびをします。かまくらをつくっています。つくるのにじかんがかかりません。

ワークシート④の記述

ブランコができるようになったよ。ようちえんのときは、おしてもらっていたけど小学校にきてからできました。なつにやりました。たのしいから。うれしい気持ちでした。

C4 の記述内容

ワークシート③の記述



たいいくでがっこう六しゅうしたから、めちやくちやつかれてあしがいたくなくなったです。(ママ) (注：きゅうちゃんは2種類選択していたが、マラソンきゅうちゃんのことのみ書いていた。)

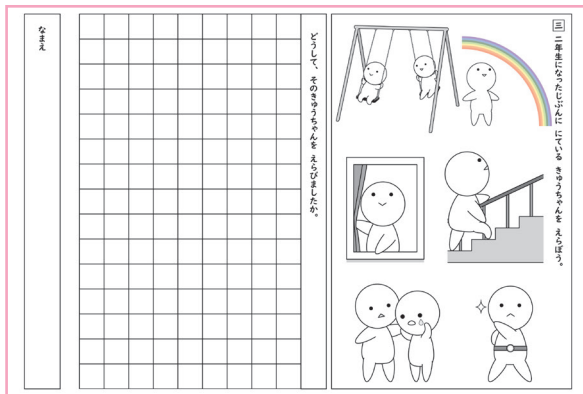
ワークシート③の記述

かんじがかけるようになったし、あしがはやくなった。目というかんじがあって、ステージでみんなに（書いて）見せた。

なぜ、あしがはやくなったか、りゅうはマラソンでいきをすいながら、がっこういっばいまわって、あしがはやくなりました。あしがいたくなくていきができなかったです。

III-4 未来（2年生）の自分語りと作文材料集め

6時間目の導入として、前時（5時間目）まで考えてきた幼保時代の自分・現在の自分について、ひとりひとりに問いかけながら想起させた。そして、本時（6時間目）からは、未来の自分について考えていくことを伝えた。作文材料集めの最後の活動である。まず、どんな2年生になりたいのかを自由に発言させた。その後、ワークシート③を配付し絵図の読み解きを行った。きゅうちゃん絵図は、授業者田中が、未来を象徴するようなものを意図して選んだ。たとえば、虹を見上げているきゅうちゃん・階段を上っていくきゅうちゃん・変身きゅうちゃんなどの絵図である。



ワークシート③（再掲）

以下に、未来の自分きゅうちゃんについて語りあっている場面の対話記録を掲載する。

- T 今日、どんなに2年生になりたいかを書いてもらいたい。
- C3 かっこいい2年生。
- T わあ、かっこいい2年生。それ、すごいな、C3さん。
- C1 すてきで真面目でお手本になれる2年生。
- C2 わたしは1年生に優しくできる2年生でクラスが笑顔になれる2年生。
- C3 （1年生が）泣いてたら泣かないように。
- C1 誰かが泣いていたら絆創膏貼ってあげたり、（保健室の）先生のところに連れて行って

てあげたりするの。

- C3 C3は、「大丈夫な時は、ここで待っててね。」って言うの。
- C2・C3 C1さんに続けます。
- T じゃあC3さん、さっきから言ってたから先に聞こうかな。
- C3 マスクの予備を持ってきてなかったらC3のあげる。
- C2 C3さんに続けます。新しい1年生が入ってきたら学校の中、探検することがあるから、ここはこうだよって教えてあげる。
- T みんな、新しい1年生のこといっぱい考えてくれているね、じゃあ、自分は？どんなことができる2年生になりたいの？
- C1 ふたつのきゅうちゃん選んでもいい？
- T いいよ。先生ね、また、新しいきゅうちゃんを持ってきたよ。どんなきゅうちゃんがいるか、教えて。（と言って新しいきゅうちゃん絵図が載っているワークシート③を配付）
- C全員 わあ〜。（歓声を上げる）
- C1 階段を登ってるきゅうちゃん。ブランコ漕いでるきゅうちゃん。虹を見てるきゅうちゃん。窓を見てるきゅうちゃん。
- C2 泣いてるきゅうちゃん。
- C1 ヒーローきゅうちゃん。
- C3 泣いてるきゅうちゃん。
- T 1年生の面倒を見てくれるって言ったから、これはきっと1年生きゅうちゃんだね。
- C1 C5（新1年生の名前）、泣き虫だから。
- T みんなにちょっとお話聞いてもらいたいの。（テレビにワークシート③のきゅうちゃんを映して）この虹を見てるきゅうちゃん、ただ虹を見てるんじゃなくて虹見ながら、きゅうちゃんどんなこと考えてるかな。
- C2 きれいだな。
- T どんな2年生になるかと関係あること考えてるかな。
- C2 C5さんにいろんなこと教えてあげたい。
- C全員 うん。

T 虹ってなんだろう？

C2 見て、見て、ここに虹があるよ。

T ああ、お友だちに教えてあげたくなるね。階段を上ってるきゅうちゃんは、どこに行くんだろうねえ。

C3 2階。

T うん。1階から2階に上がったなら何あるかなって思ったら…先生ね、1年生から2年生に上がったらどうなるかなって思うんだ。きゅうちゃんもどんな2年生になりたいかなと思うと思ってこのきゅうちゃんをここに持ってきたんだ。じゃあ、これは何してるの？

C4 ウルトラマンきゅうちゃん。

T うん、そうだね。このきゅうちゃん何してるの。

C 全員 変身。

T 何から何に変身？

C3 普通の人から戦う準備する人に変身。

T そうだね、じゃあみんなは1年生からどんな2年生に変身するのか。

C2 助ける人。

C1 すてきなみんなにやさしく声をかけることができるお兄さんお姉さんになりたい。

C2 C5さんに優しいクラスにしたい。レベルアップする2年生。家庭学習がいっぱいできる。

T このブランコは？

C1 C1は、こっちのきゅうちゃん。C5は「漕いで。」って言ってる。

C1 先生、足、すごいよ。前に行く時、足が前に伸びてる。

C3 春になったらまた乗れる。

T じゃあ今度はこっちのきゅうちゃんは、どこ見てる？

C3 空。

C1 今日はいい天気だな。

T これもさ、2年生になるきゅうちゃんだからさ、どんなこと思って空を見てるのかな。

C1 眩しい。

T ああ、眩しい。いい言葉だね。

C1 鳥さん飛んでるかな。

C3 空飛びたいな。

C2 飛行機に乗りたいな。

C1 飛行機雲が太陽に繋がってる。

T うん。じゃあ、最後のきゅうちゃんは？

C 全員 泣いてる。小さいきゅうちゃんはC5。

T みんなは？

C1 大きいきゅうちゃん。ひと呼吸したら元気になれるよ。

C2 1回なにがあったか教えてっていう。

C1 質問をして、「うん」とかなら、泣いてても言えるからそう言う言葉で聞いてあげる。

T はい、じゃあ書いてください。どれが2年生になった自分きゅうちゃんか選んだわけもね。

子どもたちは、3度目の活動なのですぐに書き始めた。どの児童も、自分きゅうちゃんを迷わずに選び出し、書き進めていた。なめらかにワークシートの上を走る鉛筆の音だけが響いていた。子どもたちは一心に書いていた。ただ、前日に一日入学があったため、3人の児童がC5（新1年生の名前）を出して、その児童に優しくすることに集中して書いていた。最近あったことだけに注意を集中させず、広い視野で2年生の自分像を書くようファシリテートする必要があった。これは本時における反省点である。また、この日（6時間目）は1人欠席だったため、発表を次の時間に持ち越した。

翌日（7時間目）、はじめに3人の児童からワークシート③に書いた内容を発表してもらった。そして、前時に選んだきゅうちゃん絵図を貼り付けたワークシート⑤⑥を同時に配付した。過去現在のワークシート①②③④で書き進めてきたように、どんな2年生になりたいかという取材・描写のための最後の活動である。ここで、前時、欠席していた児童には「こんな2年生になりたいと思う自分きゅうちゃん」を選んでもらい、子どもた

ち同士で質問をし合いながら、ワークシート⑤⑥を書き進めていった。

おもしろいアルバム

ワークシート⑤（再掲）

おもしろいアルバム

ワークシート⑥（再掲）

書き進める中で子どもたちは変身きゅうちゃんや階段を上っているきゅうちゃん・カーテンを開けているきゅうちゃんの絵図を見て、どんな2年生になりたいか、自分が変身したいことを自分自身に聞きながら（ワークシート⑤⑥を書くため）再び語り始めた。この時、子どもたちはきゅうちゃんを完全に自分に見立てて外挿を始めていた。以下にワークシート⑤⑥に取り組んでいる場面の対話記録の一部を掲載する。

C1 みんなどんなすてきなお兄さんお姉さんにかわるのかな。（階段を上っていくきゅうちゃんを見て）先生にいっぱい褒められたり何かを頼まれていっぱい仕事をするすてきな

なお兄さんお姉さんになるのかな。

C3 先生より背高くなれるかな。よ～し、大人になったら会社に入って…。

C1（カーテンを開けているきゅうちゃんを見ながら）換気して、朝になってママに起こされないで起きて自分で起きてカーテンも開けている。

T それいいね。

C4 まだコロナかな。

T C4さんはどんな2年生になろうとしているの？

C4（考えている）

C3 2年生になったらどれくらい完食できるかな。

C1 ママのお手伝いをよくして、よし、小さい頃よりもっと褒めてもらおう。

C4 うん。

T いいね。前向きなきゅうちゃんいっぱい出てきたね。じゃあ、次は変身きゅうちゃん。

C4 変身ってどんなの？

C1 ウルトラマンになって…小さい頃より大きく育ててみんなを助けたり先生を助けたり…先生、ぼく持ちますよ。わたし持ちますよ。大丈夫ですかって心配とかするかっていい2年生。

T いい言葉出たね。変身って前の自分と違うってことなんだね。

C2 1年生の時よりお助け屋さんになりたい。

C3 1年生のときよりもっときれいな字を書きたい。

T おっ、いいんじゃない。

C3（嬉しそうに笑う）

C4 1年生(のとき)よりも泣かないでいたい。

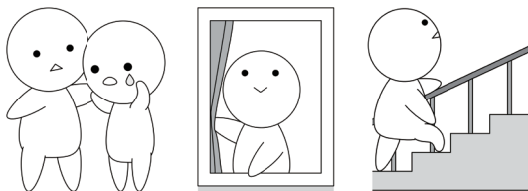
T うん、この小さいきゅうちゃん、泣いているもんね。さあ、今日は、C5さんに優しくすることのほかにもいっぱい出てきてうれしいです。みんなどんな2年生に変身したいのか、勉強のこと、給食のこと、自分のことをたくさんワークシート⑥に書こう。

このように、過去現在未来とワークシートが進むにつれ、子どもたちの対話がますます活発になり、ワークシートへの書き込みも一層、文章量が増えていった。完成したワークシートには、どんな自分になりたいかという質問に「漢字が下手だったけど、2年生になったらできるようになったよ。」と2年生になったつもりで表現している児童もいる。そして、たくさんの質問を自分きゅうちゃんに投げかけ、「どうやったらレベルアップできますか。」「指を使わないで、たし算ができた。」「どんな自分に変身したいですか。」「かっこいい2年生、口悪くしない優しい2年生になりたいな。」などと具体的な理想の状況を文章にしている。

以下にワークシート㊦⑤⑥の記述内容を紹介する。なお、ワークシートごとにきゅうちゃんを選び直している児童や、選択した中から特定のきゅうちゃん絵図のこのみ記述している児童もいる。()は授業者田中による言葉の補足である。

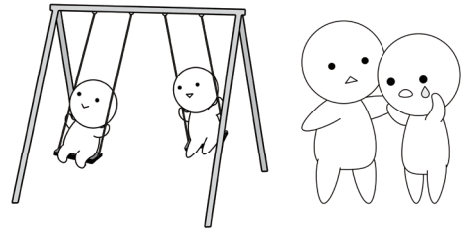
C1 の記述内容

ワークシート㊦の記述



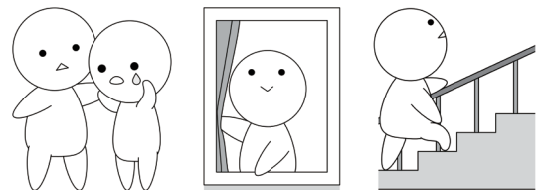
C5 がないていたら「だいじょうぶ?」とこえをかけてあげたり「おされたの? つまずいたの?」と、ないていても「うん」や「ううん」と、ないててもいえるようにしつもんをして、「けがしてない? どこもいたくない?」といたり、「ひととききゅうするといいよ。」っていつておちつかせてあげるやさしいおにいさんおねえさんになる。

ワークシート⑤の記述



ブランコをこぐとき、ブランコがうしろのとき足をまえにしてブランコがまえのときは足をうしろにするとじょうずにたかくこげるとか、トイレはここだよ。きょうしつはここだよ。ここにはいるときは、こんなことをいつてはいるんだよ。あそんでいいところは、ここここだよ。ここはマスクがはずれたりけがをして、ちがでたときに、これをわすれました。けがをしてちがでたのでこれくださいというと、(マスクを) くれたり (ばんそうこうを) はってくれたりするよ。

ワークシート⑥の記述



① やさしくてまじめで、だれにでもおてほんになる2年生になるには、どうやったらなれるんですか。

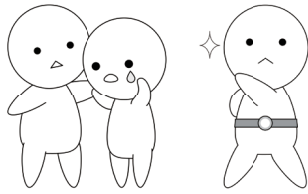
→学校のじゅんびをすぐあたりまえにすぐすること。ないている人にやさしくこえをかけてあげる。

ママにおこされなくてカーテンをあけて、すごいねとほめてもらう。

こんどは、先生に、だいじょうぶですか。にもつ、もちますよ。どこにはこびますかとか、ともだちにやさしくできる2年生になりたい。かいだんをのぼっているきゅうちゃん(のかいだん)は、一だん一だんが大きくなるかいだんとおもいます。

C2 の記述内容

ワークシート③の記述



りゆうはC5がなくてわたしが「だいじょうぶ。なにがあったの。」といって、C5が「えーんえーん。」といっていたらぜったいいって「だいじょうぶ。」っていてもわからないときは、いっぱいやさしい、すぐにたすける二年生になりたい。

ワークシート⑤の記述

かていがくしゅうをいっぱいやること。かていがくしゅうをもっといっぱいやること。

さんすうのたしざんとひきざんをいっぱいやる。

きれいな字をかくためにいっぱいべんきょうをやってきれいな字をかく。

二年生になったらおかあさんにおこされないようにする。

二年生になったら一こレベルアップー。

ワークシート⑥の記述

①レベルアップーってどんなことですか。

→ゆびをつかわないでたしざんができた。

②どうしたら一人で早くおきられるんですか。

→早ね早おきをすればできます。

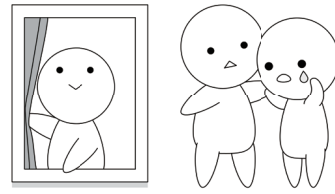
③どんな自分にへんしんしたいか。

→たいいくのとびばこの三だんをとべたい。（とべるようになりたい。）

えをうまくかきたい。そのためにれんしゅうする。えのぐのいろをまぜたり、ふでに水をちょっとつけたりすることにきをつける。

C3 の記述内容

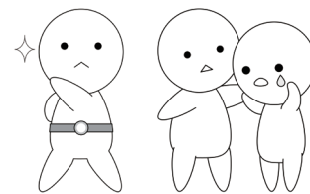
ワークシート③の記述



ひこうきぐもがそばに見えるからです。

なっている人がいたら声をかけて、なにがあったかわかるからと、なっている人をほっといたらかわいそうだからです。

ワークシート⑤の記述



かん字がへただったけど、二年生になったらできるようになったよ。それは、先生がかん字をおしえてくれたおかげでおぼえられるようになったよ。字をじょうずにかける二年生になりたいです。

ワークシート⑥の記述

（きゅうちゃん絵図はワークシート⑤と同じ）

①どうやったら字がじょうずになれたんですか。

→自分がていねいにやっているからです。

②かっこいい二年生ってどんな二年生ですか。

→すごくやさしい二年生です。

③やさしいってどんな人ですか。

→こんなことをしたらいいよとか、おしえてくれる（あげる）ことです。

C4の記述内容

ワークシート⑥の記述



- ①どんなじぶんにへんしんしたいか。
→きんにくをつけたいから、これから、きんトレをする。かんじをおぼえられるようになる。
- ②どうしたらおぼえられるようになるか。
→C2さんは、「文にするとおぼえやすいよ。」といった。

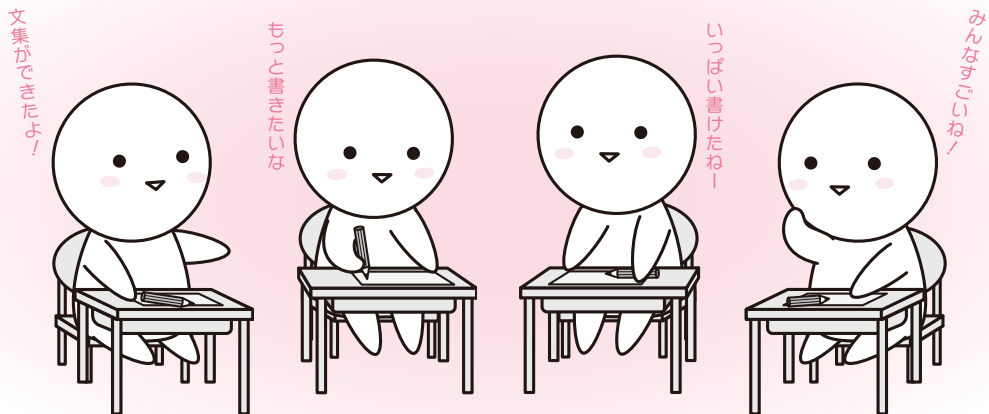
IV. 看图アプローチ語りカフェを活用した実践の成果

子どもたちは、これまでの出来事を思い出したり、どんな2年生になりたいかという未来の自分を想像したりしながら、少しずつ作文の材料集めをしていった。3つの時代の自分についてワークシートを完成させた後、仕上げの作文を書くのに、推敲、清書まで2時間を費やしたが、どの児童も原稿用紙3枚まで使いサクサクと書き上げた。全

体で対話しながら作り上げてきたワークシートが作文メモとして手元にあるわけだから、書きたいことがあふれるほどある。言わば、書くための「取材」をクラスみんなですてきたことになる。「書くことがない」という子どもは一人もいない。これはまた、学習指導要領国語科、低学年の書くことの指導事項ア「経験したこと、想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にする」に合致している。さらに、過去現在未来の時代ごとにワークシートを完成させていくことにより自ずと「自分の思いや考えが明確になるように事柄の順序に沿って簡単な構成を考える」（指導事項 書くことイ）ことも網羅することができる。

それは、できあがった作文と、書き溜めてきたワークシートを比べてみてもよくわかる。子どもたちはワークシートの文をそのまま書き写すのではなく、接続詞を使って前後の文をうまくつなぎながら、構成を考えて作文らしく文章の体裁を整えている。

以下に作文の清書版（完成した文集の原稿）を掲載する。なお、この文集も本稿用に一人称をすべて「わたし」に書き替えてある。



こんなわたしになりたいな

C-1

わたしは、ほいくえんのと看、えがすきでした。どうぶつや人をかいたりしていました。いまも、おえかきがいすきです。このえは、みかんをかいています。ちいさいころよくかいていました。すきないろは水いろ、五さいのころは赤いろ、一年生のころは青いろです。



ほいくえんころのわたし

一年生になってわたしは、さく文がかけるようになりました。まえはかけなかったけどみさき先生がおしえてくれたからかけるようになりました。みさき先生に「てん」と「まる」をどこにつけるかをおしえてもらいました。

わたしは、アイヌの作文をかきました。学校にアイヌの人たちがきていっしょにおどったり

うたったりしてすてきなたいけんをさせてもらったからです。

二年生になったらまじめでだれにもおてほんになる二年生になりたいです。そのためは、学校のじゅんびをあたりまえに、すぐすることです。そして、なっている人に、やさしくこえをかけてあげることです。ともだちにやさしくできる二年生になりたいです。



一年生のわたし

わたしがなりたいじぶんは、かいだんをのぼっているきゆうちゃんです。きゆうちゃんのかいだんは、一だん一だんが大きくなるかいだんだとおもいます。わたしもきゆうちゃんのようにかいだんをのぼっていききたいとおもいます。



二年生では、こんなわたし

こんなわたしになりたいな

C2

わたしは、ようちえんのころ、いつもあそんでいました。

いつもあそんでいたのしかつたからです。タンバリンをふってあそんでいます。おうちのおもちやばこからもってきますました。一人であそんでいます。

一年生になったらわたしは字がきれいになりました。ようちえんのころ、字がうまくかけませんでした。みさき先生が字をおしえてくれて字がうまくなりました。

「ここは、とめるんだよ。『あ』のま
るのところは、ふうせんさんがいるよ。」



一年生のわたし



ようちえんのころのわたし

とおしえてくれました。

きれいになった字でさく文もかけました。学
しゅうはっぴようかいのさく文は、手わのこ
をかきました。校かをコロナでうたえないので
手わでやりました。『ほろむい川』の手わは、ず
つとおぼえています。さく文をけっこうかきま
した。さく文ようしにかけてうれしかったです。
二年生になったら、かていがくしゅうをい
ぱいやりたいです。きれいな字をかくこと。ゆ
びをつかわないでたしざんができること。おか
あさんにおこされないようにすることです。二
年生になって一こレベルアップになります。へ
んしんきゆうちゃんのように一こレベル
アップしたいです。二年生に
なったらえがおあふれるクラ
スになりたいな。

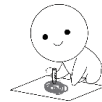


二年生では、
こんなわたし

こんなわたしになりたいな

C3

わたしは、ようちえんのときよくおえかきと、はなみずをかんでいるのをおもい出せません。いつも、ようちえんのときは、おえかきがへたでした。でも、おえかきがすきだからタイヤのえをかいていました。



ようちえんのころのわたし



一年生になってブランコがこげるようになりました。うれしかったです。ようちえんのときは、おもしろかったです。ブランコがこげなかったけど一年生になってひとりでこげるようになりました。ようちえんのときは、おもしろかったです。そのとき、おもしろいようになっていました。そのときの気もちがうれしかったです。みんなとたまにあそびます。そのとき



一年生のわたし

すごくたのしかったです。またやりたいです。なつになったらできるとおもいます。こんど、ともだちとやれるといいな。

二年生になったらかん字がじょうずになりたいです。いまは、かん字がへただけで二年生になつたらできるようになったよといいたいです。ここをこめたらじょうずになれるとおもいます。

わたしはじょうずにかける二年生になりたいです。それからかっこいい二年生になりたいです。かっこいい二年生ってどんな二年生かというところをこめたら「こんなことをしたらいいよ。」とおしえてあげる人になりたいです。かっこいい二年生になりたいな。口わるくないやさしい二年生になりたいな。



2年生では、こんなわたし

こんなわたしになりたいな

C4

わたしは、ほいくえんのころ、よくないていました。そのわけは、ママがほいくえんにむかえにきたときに



ほいくえんのころのわたし

「のみものをかって」
っていったら、ママは、こまったかおをして「かえるよ。」

っていわれてないていました。

一年生になったらマラソンをしました。たいいくのじかんに学校のまわりを六しゅうしたらめちやくちやつかれて足がいたくなりました。でも、足がはやくくなりました。どうしてはやく

なったかというマラソンでいきをすいながら学校をいっぱいまわって足がはやくくなりました。



1年生のわたし

足がいたくなっていきができなくなってもがんばってはしりつづけました。二年生になったら、きんにくをつけたいからこれからきんトレをしたいです。

それから、かんじをおぼえられるようになりたいです。C2さんは、

「文にするとおぼえやすいよ。」

といいました。へんしんきゆうちゃんになって、このきんトレ生かつとかん字れんしゅうをがんばりたいです。



2年生では、こんなわたし

対話記録にも認められるように子どもたちの自然な語り合いや温かい雰囲気が、毎時間の授業中に見られた。書きあがった作文は、子どもたち同士が協同して楽しく創り上げてきた作文である。子どもたちはきゅうちゃん絵図を自分に見立てて読み解き、さらに思いを乗せて語り合うことにより想像力が全開する。学習後の子どもたちのふりかえりには、「きゅうちゃんの絵を見て考えることが楽しかった」「こんなに書いたのははじめて」「きゅうちゃんていっぱい考えられた」などの文言が見られた。このことは、看図アプローチ語りカフェを活用した作文指導がいかにより子どもたちを深く思考させ、表現力を向上させたかを物語っている。「さいしょは作文がすきじゃなかったけどきゅうちゃんをつかった作文がいっぱい書けたから楽しかった」とふりかえった児童もいた。

また、語り合うことで、言葉を通じて積極的にクラスメートと関わり、自己を表現し、他者の心と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度、いわゆる「学びに向かう力・人間性等」を育てることにとも対応できたと考える。子どもたちのふりかえりを次にまとめておく。

C1 のふりかえり

かいだんをのぼっているきゅうちゃんが、大きくなっていくのがかっこよかったからわたしもそうなるようにがんばりたいとおもいます。きゅうちゃんをつかったさく文のべんきょうは、かいだんをのぼっているきゅうちゃんやえをかいているきゅうちゃんていっぱいかんがえられたからです。

C2 のふりかえり

さく文ようしを3まいつかうのは、はじめてです。きゅうちゃんをつかったさく文はたのしかったです。きゅうちゃんのえを見て文をかかんがえたのがたのしかったです。

C3 のふりかえり

きゅうちゃんのさく文がたのしかったです。いっぱいかけたからです。またかきたいです。さいしょはさく文すきじゃなかったけどきゅうちゃんをつかったさく文がいっぱいかけた。

C4 のふりかえり

こんなかいたのははじめてです。きゅうちゃんの文でたのしかったです。きゅうちゃんのえを見てかんがえるのがたのしかったです。

V. おわりに—今後の課題

作文を書くためには、十分に話すことが特に低学年の児童には必要である。今回実践した看図アプローチ語りカフェでは、書きたいことをすぐに文字に書き起こすのではなく、絵図からの情報をまず言葉に置き換えさせている。このような手順をふんだのには次のような理由がある。低学年児の中には音声として発した自分の言葉を一字一句漏らすことなく文字化することや、主述関係をねじれなく表現することなど、完全な文章表現をすることがまだ困難な発達段階にある児童もいるからである。子どもたちは耳から聞いた友達同士の言葉に刺激され、絵図を見て新たな発見をしながら再び自己の思いと言葉を繋ぎ合わせる。この積み重ねが温かな対話を生み、学習者同士の連携を育む。個人思考と全体思考を繰り返しながら、一つの絵図から子どもたちはさまざまな思いで想像を膨らませ、書きたい内容を創造する。

絵図を選定・提示する際にはある程度授業者の意図が込められるが、子どもたちは必ずしも授業者の思う通りに考えてくれるわけではない。たとえば、Ⅲ-4でも言及したが、どんな2年生になりたいかという発問に対して前日の一日入学に引かれて「C5(唯一の新1年生である特定の児童)に優しくしたい」と、全員がその一点に集中するという場面があった。子どもたちは直近の出来事に影響されやすく、視野が狭くなることがある。

そのような場合、授業者は子どもたちが広い視野で自由に発想できるようファシリテートする必要がある。

また、子どもは小さければ小さいほど具体的に直接的、直感的な外挿を行う。たとえば、虹を見上げるきゅうちゃんなら、低学年児童だと「雨上がりの空を見ている。」と言うだろうが、同じ絵図をもう少し年齢の高い、生活経験も豊かな大学生に提示したとしよう。虹を見上げるきゅうちゃんに対して、「虹は明るい未来の象徴。」「苦しかった雨の時代の苦労は報われ、将来は明るい虹が見られる。」のように抽象的な外挿をするかもしれない。授業の中である児童はカーテンを開けるきゅうちゃんを見て「ママに起こされなくても1人で起きてカーテンを開ける。」と直接的な動作として外挿を行っていた。年齢が上がり、ものの概念が理解できるようになれば「カーテンを開ける行為は悩みを払拭し、それまでの弱い自分との決別の表明。」「窓越しに見える空は霧が晴れており、その空を見上げるのは前を向いて歩み出す自信と喜びに満ちた自分。」などと想像力を駆使した外挿をするかもしれない。つまり、学習者は年齢や生活経験に応じた外挿を行うということである。そこで授業者は過度な期待をすることなく、学習者のレディネス相応の外挿を想定した絵図を提示する必要があるだろう。発問の精査・順序と絵図の選択には慎重を期する必要がある。しかし、授業者の想定を超えた外挿をする子どもに出会うこともある。これは、看図アプローチ授業の醍醐味であろう。実際にⅢ-4で示したワークシート記述例で、C1は階段を上るきゅうちゃんを見て「かいだんをのぼっているきゅうちゃんのかいだんは、一だん一だんが大きくなるかいだんだとおもいます。」と外挿している。

今後、この看図アプローチ語りカフェの手法を、自発的な発言や感情の表出が少ない児童への表現力向上を促すツールとして活用することはできないかと模索中である。作文がきらいだった子どもに「きゅうちゃんを使って考えたことが楽しかった」と言わしめたことは「きゅうちゃん」絵図自

体が汎用性の高い教材であることを示唆している。また、「きゅうちゃん」を介してお互いの考えを伝え合い、自己を表現し、他者の心と共感する態度が見られたことは、いわば学びに向かう力・人間性等の育成にもつながると考えられる。次の実践ではその可能性を確かめていきたい。

引用・参考文献

- 石田ゆき 2022 「きゅうちゃんの歴史（I）誕生編一」『全国看図アプローチ研究会研究誌』16号 pp.29-37
- 石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ—絵本づくり授業実践の報告—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15
- 茅野徑子 2020 「『看図アプローチ語りカフェ』による『自分を深く考えよう大作戦』—未来に向かっていく力をつける中学校国語科の卒業制作—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』3号 pp.16-29
- 鹿内信善 2003 『やる気を引き出す看図作文の授業—創造的「読み書き」の理論と実践』 春風社
- 鹿内信善 2015 『改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方—看図アプローチで育てる学びの力』 ナカニシヤ出版
- 田中 岬 2022 「1年生がスムーズに説明文が書けることを目指して—みぶりが伝える内容を文章化するための看図アプローチ—」『全国看図アプローチ研究会研究誌』14号 pp.3-21
- 松永 努 2017 『ひと目でわかる！「小学校新学習指導要領」解説付き 新旧対照本』 時事通信出版局
- 山下雅佳実 2020 「『看図アプローチ語りカフェ』プログラムにおける探索的研究—保育所における園内研修としての有用性—」『保育文化研究』第10号 pp.75-88
- 山下雅佳実 2021 「多職種連携教育プログラム

「看図アプローチ語りカフェ」を活用した1年生の自分作文（田中 岬・石田ゆき）

の開発」『全国看図アプローチ研究会研究誌』
10号 pp. 33-52
文部科学省 2018 『小学校学習指導要領（平成
29年告示）解説国語編』 東洋館出版

注 本研究の一部は日本協同教育学会第18回
大会で発表した。

2022年11月15日受付

2022年11月28日査読終了受理